

会 議 録

1 会議名

第11回上越市クリーンセンター生活環境保全協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 委嘱状交付（公開）
- (2) 会長・副会長の選任（公開）
- (3) 協議事項（公開）

ア 令和元年度上越市クリーンセンターの運営状況について

イ 令和元年度環境測定結果について

ウ その他（地域イベントへの協賛）

- (4) 意見書提出（公開）

3 開催日時

令和2年2月26日（金）

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面で開催

4 開催場所

—

5 傍聴人の数

—

6 出席した者（敬称略）

・委員：山縣 耕太郎、清水 忠明、白木 朝雄、卷内 勉、西條 栄市、
吉田 文雄、小山 秋美、濱田 雅巳、武田 徹

7 発言の内容

【議題1】

（吉田委員）

○今冬の大雪の影響により3月、4月は剪定枝の持ち込みが増加すると想定される。

○極力受入してほしいが、受入が困難な場合は、1日の受入台数を制限するなど何らかの方法でスムーズな受入をお願いしたい。

（事務局）

○混雑が予想される場合は、車両誘導員を配置し、搬入出動線の安全を確保しています。

○また、混雑緩和のため、受付担当が待機車両に直接伺い、事前に受付用紙を配布し、

処理時間の短縮を図るなど、スムーズに受入ができるよう対応してまいります。

○このほか、今冬の大雪の影響を踏まえ、クリーンセンターにおける燃やせるごみの受入体制の整備を検討してまいります。

(武田委員)

○より厳しい管理基準を設定し、基準値を達成していることを評価する。

○今後も適正な運転管理に努めること。

(事務局)

○引き続き、適正な運転管理に努めてまいります。

(清水委員)

○稼働状況、点検等は、いずれも適切と考えられる。

(事務局)

○引き続き、適正な運転管理に努めてまいります。

(清水委員)

○資料 1-1 のスライド 8、9 について、横軸に月を明記すること。

(事務局)

○資料については、月を明記することとします。

(濱田委員)

○焼却ごみ量が平成 30 年度と比べて、約 470 トン増加しているのに対して、焼却炉の運転日数が計画から変更になっていない理由は。

○運転日数を変更しない理由があれば教えてほしい。

(事務局)

○当初計画外であった 1 号炉排ガス再循環ファンの整備を令和 2 年 1 月に計画したため、令和元年 12 月時点で年間運転計画を改定しました。

○この際、平成 31 年 4 月から令和元年 11 月までの実績を年間運転計画に反映させたことから、運転日数は、計画と実績が一致しています。

○なお、当初の計画運転日数は、1 号炉 286 日、2 号炉 309 日としていました。

(濱田委員)

○焼却ごみ量が約 1%の増加に対して、灰搬出量が 4.53%となっている理由は。

(事務局)

○焼却ごみ量の増加に比較して灰搬出量の増加割合が多くなる理由としては、ごみ中の灰分や可燃分中の C₀や S の増加による消石灰使用量の増加等があるものと考えていま

す。

○消石灰使用量を見ると、平成 30 年度は約 363 トン、令和元年度は約 394 トンで消石灰使用量は約 31 トン増加しています。

○さらに、焼却主灰の含水率を見ると、平成 30 年度は平均で 14.2%、令和元年度は平均で 15.6%となり、この含水率の増加も灰搬出量増加の要因になっていると考えています。

(濱田委員)

○排ガス中の水銀濃度が 1 号炉と 2 号炉で異なる理由は。この程度の差は毎回出ているのか。

(事務局)

○水銀濃度が 1 号炉で高めなのは、1 号炉のろ過式集じん機の差圧が高いことがその理由の 1 つとして考えられます。

○ろ過式集じん機は、通常差圧制御により運転していますが、1 号炉はろ布の目詰まりにより、2 号炉よりも差圧が高い傾向となっているため、パルスによるばいじんや消石灰、活性炭などの払い落とし間隔が短くなっています。

○このため、ろ布表面で水銀を吸着する働きをする活性炭の保持量・保持時間が短くなり、1 号炉の排出水銀濃度が高くなっていると推測しています。

○令和 3 年 3 月に行う定期工事において、1 号ろ過式集じん機ろ布の交換を予定しておりますので、今後の測定結果を注視してまいります。

【議題 2】

(清水委員)

○資料 2-3 のダイオキシン類の説明で「塩素含有物質等が燃焼する際に発生」は誤解を招く。

○「不完全燃焼」、「400℃程度での反応」で生成するので、一酸化炭素と同様に完全燃焼が一つの対策である。

(事務局)

○ご指摘のとおり、資料の表現を修正させていただきます。

資料 2-3 『ダイオキシン類についての説明』

有機塩素化合物の一種で、廃棄物などの物の焼却の過程で発生します。不完全燃焼や燃焼ガスの冷却過程で 300～500℃での滞留時間が長いと、より多く発生（デノボ合成）すると言われています。

(清水委員)

○資料 2-3 の誤記を改めること。

(事務局)

○ご指摘のとおり、誤記を修正させていただきます。

頁	正	誤
P4	HCL SOx	HCL Sox
P8	大気汚染防止法	大気汚染防止方

(濱田委員)

○ごみの水分の比率が数値としては、一般（50%程度）よりも小さく（このため可燃分の比率が高く、発熱量も大きい）、また数値の変動が大きいように思われるが、その理由は。

(事務局)

○ごみ搬入量が増加したことにより、ごみピット内での攪拌が困難となり、均一なごみ質が得られなかったためと考えています。

○検査においては、ごみピットからの採取にあたって、ピット内のごみを十分混合したのち、200kg 以上採取することとされているため、代表的な試料採取となるよう採取時の攪拌を十分に行ってまいります。

(濱田委員)

○DCS における発熱量データとの比較が分かれば教えてほしい。

(事務局)

○令和元年度の DCS における低位発熱量は次のとおりです。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
11.16	10.84	10.8	10.47	10.61	10.53
10月	11月	12月	1月	2月	3月
10.79	10.36	10.11	10.69	10.75	10.88

※単位：MJ/kg

【議題 3】

(武田委員)

○新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止になっているので、これに替わる地域貢献を検討すること。

(事務局)

- 協賛を予定していたイベントは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となったことから、再開後のイベントには、引き続き協賛を行う計画です。
- また、感染症の影響により校外学習の機会が減少した市内の子供たちがクリーンセンターを今までどおり見学できるよう、本年度は、協賛金分の経費を見学時における感染防止対策に充てさせていただいています。
- 今後、イベントが中止となった際の対応につきましては、地域貢献を通して、信頼される施設運営となるようその方法を検討してまいります。

8 問合せ先

自治・市民環境部生活環境課ごみ焼却係 TEL：025-526-5111（内線 10201620）

E-mail：seikatsu@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。